

(国語科)

主体的に考え、互いを高め合う児童の育成
—自ら学び、対話的な活動を通して深い学びにつなげる指導を目指して—

大阪市立山之内小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校では、「安全で安心して成長できる学校」という教育目標のもと、児童が心置きなく学習に向かい、成長できるよう日々の教育活動に取り組んできた。児童の実態として、学習に抵抗を感じる児童や、文章からの読み取りを苦手とし、自分の考えを発言したり行動したりすることに消極的な児童が一定数いる。児童が自信をもって学習に取り組み、より一層の成長につなげるために、今年度も昨年度から取り組んできた国語科の研究を進めていく。

2. 研究の趣旨

本年度の研究主題として「主体的に考え、互いを高め合う児童の育成～自ら学び、対話的な活動を通して深い学びにつなげる指導を目指して～」と設定した。児童が主体的に学習に取り組むことはもちろん、学習の先までを見通した「課題設定の工夫」、児童が主体的に課題と向き合い、理由や根拠をもって読み取ったことや自分の考えを表現する「一人学び」、「一人学び」を通しての気づきや考えたことを主体的・対話的に深め合う「学び合い」。これらに着目して研究を進めていくことにした。

国語科学習指導要領にもあるが、多様な形で大量の情報が容易に入手できる現代社会において、主体的に目的意識をもって読むことや、書かれていることを正確に理解し、判断する力を十分に身につけさせる必要がある。これからの児童の未来を充実したものにするため、この研究に取り組んでいく。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 児童が主体的に学びへ向かうための課題設定の工夫

- ・ 児童の学習意欲を喚起し、その学習の先まで見通した学習課題の設定
- ・ 児童が主体的に取り組み、充実した活動にするための発問

視点② 「読むこと」に関わる「一人学び」の工夫と充実

- ・ 文章を読み取る力の育成（指導法の研究）
- ・ 読み取ったことを理由や根拠を含め表現する力の育成（ノート、発表等）

視点③ 「学び合い」を重視した指導

- ・ 「一人学び」を通しての気づきや考えたことを互いに、意欲的に共有し、深め合う場の設定と工夫
- ・ 学び合う場での話し合いの指導
- ・ 互いに認め合い、自由に意見交換できるような雰囲気作り、学級経営

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

【児童が主体的に学びへ向かうための課題設定の工夫】

- ・第 1 学年の授業研究のように生活に身近な課題設定を行うことで、児童は主体的に取り組むことができていた。

【「読むこと」に関わる「一人学び」の工夫と充実】

- ・学年によっては全文シートに色分けしながら線引きをする等取り組んでいた。児童の実態や発達段階に合わせた「一人学び」のあり方を研究し、取り組むことで単元全体の活動がより良いものとなった。
- ・その単元で設定されている言語活動に合わせて、教材文にある情報を取捨選択する等の「一人学び」を行うことでその後の学習が充実したものになった。

【「学び合い」を重視した指導】

- ・児童は自分一人では気付けないことでも「学び合い」を通してそれらに気付くことができた。また、自分と同じ、または似た考え等にふれ合うことで自分に自信をもつことができた児童もいた。

(2) 今後の課題

昨年度に引き続き国語科の研究に取り組むことで、児童は主体的に自分の考えを伝え合うことができるようになってきている。今年度の授業研究の成果や課題から来年度に取り組んでいきたいことは以下の点である。

○課題設定・発問についての追求

- ・児童が主体的に取り組むことができ、幅広い考えが生まれる課題設定

○「一人学び」についての追求

- ・児童が進んで単元の目標に向かえる内容の工夫
- ・どの児童も進んで取り組めるような支援の方法

○「学び合い」についての追求

- ・児童の考えが妥当なものかを考えるための問い返し
- ・学びをより広げたり深めたりするための「学び合い」の進め方

来年度からもこれらのことを意識して、児童が主体的に取り組む、自分の考えを自信をもって伝え合えるよう努力していきたい。